

1/26  
旧制木造中学校  
講堂

## 訓練で火災時の対応を確認



取り残された人を救助する訓練の様子

昭和24年1月26日、法隆寺の金堂が炎上し、壁面が焼損。これをきっかけに、火災をはじめとする災害から文化財を守ろうと、昭和30年に「文化財防火デー」（毎年1月26日）が定められました。

文化庁や消防庁をはじめ、関係機関は、連携・協力して全国的に「文化財防火運動」を展開し、文化財愛護に関する意識の高揚を図っています。

この日、市指定文化財「旧制木造中学校講堂」で火災を想定した訓練が行われました。建物内では教育委員会の職員が119番通報・初期消火・避難訓練を実施。消防職員は、建物内に取り残された人の救助や放水訓練を行いました。

訓練を終え、市消防署の菊地弘樹副署長は「火災が発生したとき、自分の体が思うように動かなかったり、何をすればよいか分からなかったりするもの。いざというときに迅速に動けるよう、貴重な文化財を守るために、良い訓練になった。今後も教育委員会と連携して訓練を続けていきたい」と話しました。

## にぎわいを見せるくらしの工夫展

第38回つがる市くらしの工夫展が開催され、市内の女性団体や生活改善グループなどが、くらしの知恵を生かした手芸品やアイデア料理を披露しました。

開催に先立ち、主催のつがる市生活改善グループ連絡協議会の中村嘉子会長は「丹精込めた作品が多数出品され、改めて市民のアイデアと技術の高さに誇りを感じ、うれしく思います」とあいさつ。

展示コーナーには、地元農産物を使用した漬物やお菓子、手の込んだ衣服や小物類、稲わら工芸品、絵画など多彩な作品が並べられ、訪れた人たちは、気に入った料理のレシピをメモするなど、熱心に作品を鑑賞していました。このほか、農業者年金や下水道の紹介コーナー、地元農産加工品の販売コーナーなども設けられ、大勢の人たちでにぎわいをみせていました。

ステージでは、津軽伝統人形芝居「金多豆蔵（きんたまめじょ）」も上演され、会場内には絶えず笑いが起こっていました。



2/1  
松の館

ずらりと並んだ衣服や小物類を鑑賞する来場者

2/2  
車力こども園

## 「鬼は外、福は内」車力こども園で節分集会



風船目掛けて金棒を振る園児



鬼の迫力に驚く園児

車力こども園（佐藤左矢子園長）で節分集会が行われ、園児たちは一年の無病息災を願いました。

自分で作った色とりどりの鬼の面をつけ、元気いっぱいに童謡「まめまき」を歌って始まった節分集会。「好き嫌い鬼」や「泣き虫鬼」、「ゲームやりすぎ鬼」など、自分の中から追い出したいことを書いた風船がつるされ、園児の代表4人は、鬼の金棒を振り、風船に命中させて、追い払っていました。

豆まきでは、的の段ボール箱を目掛けて、威勢よく「鬼は外、福は内」の掛け声で豆を投げつけると、突如、箱の中から赤鬼が出現。驚いた園児は「キャー」という悲鳴とともに逃げ回り、中にはあまりの迫力に泣き出す子も。それでも、先生と一緒に豆をまいて邪気を払っていました。

## 角界で活躍する2人が来訪し応援に感謝

大相撲1月場所の序ノ口で木造出身の安響(あんひびき)が7戦全勝で優勝を飾りました。この日、両親とともに倉光市長を表敬訪問した安響。優勝の報告と、周りの反響や安治川部屋での稽古生活の近況も伝え、さらなる活躍を誓いました。倉光市長は今後の昇進に期待を寄せ「けがをせず頑張ってください」と激励しました。

1/30  
市役所



倉光市長を表敬訪問した安響

2/2  
木造中  
相撲道場



木造中相撲部主将の中野匠毅君から花束を受け取る尊富士

大相撲1月場所の十両で、五所川原市出身の尊富士(たけるふじ)が13勝2敗で優勝を飾りました。この日、母校の木造中学校の相撲道場を訪れた尊富士。「地元の応援が一番、力になった」と話し、相撲部の生徒たちからの問いかけに「けがをしない体づくりと食事を大事にしている。中学校時代の稽古はとにかく厳しかった。これを乗り越えればどこの稽古も厳しく感じない」などと答えていました。

## 石川県羽咋市の瑞穂小へ復興を願いエールを送る

瑞穂小学校(桑村哲二校長)6年生28人が、能登半島地震で被災した石川県羽咋(はくい)市立瑞穂小学校に向けて、復興を願う動画やメッセージカード、折り紙の花を制作しました。

同じ校名が縁で、令和3年から毎年オンライン交流を行ってきた両校。今年度は震災の影響で交流は中止となりましたが、児童の発案により1月半ばから制作をスタート。動画の構成・編集や花のデザインなど、全て児童たちが手がけました。

動画は、児童が紙に書いた応援メッセージを持ちながら、「寄り添う」という意味を込めて「Believe(杉本竜一作曲)」を歌ってエールを送る姿を撮影。台紙には、桜の木やしゃこちゃん、羽咋市の特産品であるスイカや桃を配置し、児童一人一人のメッセージカードを貼り付けて完成させました。

作業を終えて、太田瑛仁くんは「少しずつ前のような生活に戻って、石川県の人たちが元気になってほしい」と話しました。



台紙にメッセージカードを貼る児童



1/30  
瑞穂小

メッセージ動画を撮影する児童